

第IV期 第13回 国立天文台科学戦略委員会議事抄録

日時：2025年10月22日（水） 13時00分～14時10分

場所：国立天文台大会議室、Zoom

出席者：

（台外）秋山正幸委員（Zoom）、石原安野委員（Zoom）、高橋慶太郎委員（Zoom）、溝崎智佳委員（Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、堀田英之委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）

（台内）井口聖委員（Zoom）、生駒大洋委員（Zoom）、齋藤正雄委員、竝木則行委員、野村英子委員（Zoom）、藤井友香委員（副委員長）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員

欠席者：

（台外）高田昌広委員

（台内）都丸隆行委員

陪席：

（台外）運営会議：河野孝太郎委員、住貴宏委員（Zoom）

（台内）土居守台長（Zoom）、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長

1. 確認

1.1 国立天文台科学戦略委員会名簿および出席者確認

本原委員長から、出席者の確認を行った。

1.2 第12回議事抄録の確認

本原委員長から、9月19日に開催された第12回国立天文台科学戦略委員会の議事抄録（案）について説明があり、承認された。

2. 報告と議論

2.1 タウンミーティング報告

本原委員長から、9月22日及び10月1日にZoomで約1時間開催した国立天文台サイエンスロードマップ（以下、「SRM」）に関するタウンミーティングの報告があり、そこでの質疑応答の内容について紹介があり、意見交換を行った。

（主な意見交換）

ー（予定の）11月上旬までに本委員会ですっかり議論したSRM報告書の素案を公表できるか心配である。間に合わない場合は、将来シンポジウムのためにしっかり時間を設けて、各提案者からSRM報告書素案へのフィードバックを受けられるとよい。

ー将来シンポジウムまでに全てが終わるとは考えていない。将来シンポジウムのために時間を取るという提案は現実的であり、少なくとも何回かはフィードバックをもらうことが必要になると考えている。

2.2 2025年度将来シンポジウムについて

2.2.1 講演依頼について

本原委員長から、各コミュニティ団体、国立天文台の各センター等への講演依頼が完了したことの報告があった。

2.2.2 プログラムについて

本原委員長から、プログラム案について説明があり、案の通り実施することについて承認された。なお、具体的な進め方については近日中に SOC で議論することとした。

2.2.3 セカンドサーキュラーについて

本原委員長から、将来シンポジウムのセカンドサーキュラーを 10 月 21 日に発出したとの報告があった。

2.3 実施計画策定手続きの検討状況

齋藤委員（副台長）から、実施計画策定手順の案について紹介があった。国立天文台内の策定体制、及び策定の進め方（国立天文台のリソース確保の順番、承認プロセス）について説明があり、意見交換を行った。本件については、今回の議論を基に改めて次回も検討することとした。

（主な意見交換）

ー実施計画の策定には相当なマンパワーが必要であり、国立天文台の中で委員会を作り役割分担すべき。バランスの取れた委員会で責任分担して書いたもののほうがコミュニティとしても受け取りやすい。

ー台内での議論では、執筆者として名前が出てしまうのは責任が重い、広く募るとプロジェクトの関係者になってしまい調整が困難といった意見もあった。指摘を踏まえバランスを見ながら考えたい。

ー国立天文台の中でクローズするのではなく、例えば科学戦略委員会の台外委員がオブザーバーとして入るのは健全な形である。最終案をコミュニティ、科学戦略委員会に示してフィードバックを受け、それを考慮して確定するプロセスを設ける必要がある。

ー途中段階のものを公開すると混乱を招く恐れがある、との台内での議論があった。科学戦略委員会で議論することは考えている。

ーコミュニティに公開するとしても決定権を与える訳ではない。少なくともパブコメなどで意見を聴く姿勢を取ったほうが上手くいくだろう。

ー予算はなかなか見通せないなので、実施計画に掲載された計画の全てがそのまま第 5 期中期計画の 6 年間にわたり実行される訳ではないと思う。誤解を招かないよう、実施計画に書いてあっても実施されない場合もあることを強調しておくが良い。

ーコミュニティの意見を全て反映することは不可能だが、実施計画における提案の選定にはアカウンタビリティが求められる。SRM の中で優先度にあたるものを記述しておかなければコミュニティへの説明は非常に難しくなる。時間はまだあるのでよく考えて進めるべき。

－SRMは全体の方向性を示すもので、願わくば全部やりたい、という夢のあるものだと考えている。現実的には優先順位を付けざるを得ず、実施計画で提案が絞られて苦情が出ることは我々の責任として引き受けなければならない。

－SRMで厳格に優先順位を付ける必要はないが、運営費交付金が1倍で出来るところと2倍までの間で分けるべき。分野ごとに見ると二者択一的なものは結構あると思うので、真剣に議論しておかないと実施計画を作る時に説明が非常に難しくなるのではないか。

2.4 その他

2.4.1 「未来の学術振興構想」の改訂版への今後の対応について

本原委員長から、本委員会の委員から、国立天文台の科学戦略を考える上で日本学術会議の「未来の学術振興構想」や文部科学省のロードマップに天文コミュニティから提案されたテーマを把握することが重要である、との提案があったことについて報告があった。

本件に関して、国立天文台が情報収集を行い本委員会で共有することとし、情報共有のチャンネルを作るため、本原委員長から日本学術会議にコンタクトする予定であるとの報告があった。

以上